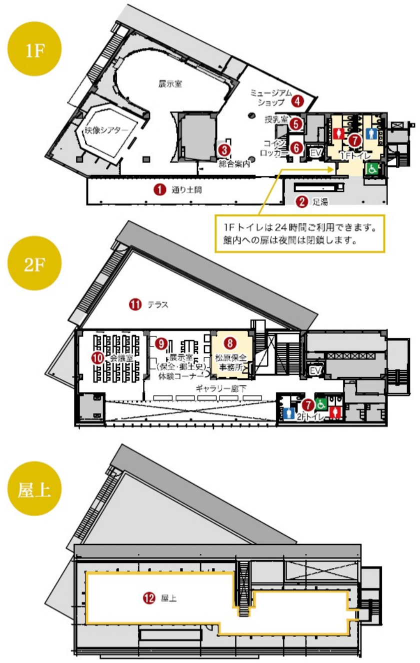
施設案内



通り土間

足湯

❶ 通り土間
三保松原と館をつなぐ廊下です。三保松原に関連する絵画や写真等の展示も行います。

❷ 足湯（冬季土・日・祝限定9:30〜16:30）
松を活用した入浴剤を使用しています。散策の最後に松原を見ながら足を休めてはいかがでしょう。
※曜日・時間等は変更になる場合がございます。

❸ 総合案内
館内や三保松原周辺、さらに静岡市内の観光名所をご案内します。気軽にお尋ねください。

❹ ミュージアムショップ
三保松原文化創造センターオリジナル商品など、三保松原にちなんだ商品を販売しています。

❺ 授乳室
授乳ブースを２つ用意しています。

❻ コインロッカー（9:00〜16:30）
無料で荷物を預けることができます。お金は、使用後に戻ってきます。

❼ トイレ
２４時間ご利用いただけます。（１階のみ）

❽ 松原保全事務所
松原の保全関係の拠点となる場所です。

❾ 展示室(保全・郷土史)体験コーナー
松原保全と三保地区に関する展示があります。顕微鏡を覗いたり、松で作った楽器を触ってみませんか。三保松原関連の書籍も自由にご覧いただけます。

❿ 会議室
有料にてご利用いただけます。ご利用の詳細に関してはお問合せください。（営利を目的とするもの、宗教的・政治的を除く）

⓫ テラス（9:00〜16:30）
松原を間近で見ながら休憩できる屋外エリアです。

⓬ 屋上（9:00〜16:30）
天気が良い時は、富士山の美しい姿をご覧いただけます。どなたでも登ることができます。

館内音楽「オトノキ」他

富士山、松林、青い海、青い空、美しい浜、そして羽衣伝説。

この世界に誇る美しい日本の景色である三保松原のイメージをいかに音楽で表現し、三保松原文化創造センターの空間を演出することができるかが出発点でした。

私は「パーカッション」という最も原始的、かつ自由なフィールドで作曲や演奏をしています。その土地の特徴により音で迫りたいという思いから「その土地で、その土地の素材から音を見つけて音楽にする」ということを1つのテーマとしています。

今回、三保松原で集めた海の音、松林の風の音、鳥のさえずり、神の道の松の倒木から作った楽器の音を楽曲に取り入れました。

その土地の素材で音を作り、音楽に取り入れることはパーカッションの世界に大きく開かれた可能性の1つであり、「音の地産地消」とも言えるのではないでしょうか。

パーカッショニスト **永井朋生**

■ **プロフィール**

静岡県修善寺生まれ。東京芸術大学大学院修了、パーカッショニスト。ミュージックシーンでの様々なジャンルでセッションやレコーディングに参加。インドネシア・ブラジル・フランス・アイスランド・リトアニアツアーなどの海外公演を多く行っています。日本でのライブやアートイベントでの演奏、TV や映画、公共施設への楽曲提供などで活躍中。自然のものを素材に楽器化して未知の音を引き出す即興演奏はナチュラルサウンド・クリエーターと呼ぶに相応しく秀逸で、国内やヨーロッパにおいて優れて高い評価を受けています。

羽衣伝説

昔々、三保の小さな村に白龍（はくりょう）という若い漁師が住んでいました。ある日彼は松の枝に美しい衣が掛かっているのを見つけました。彼がそれを手に取ったとき、突然天女が現れて言いました。「それは天人の羽衣です。どうかお返しください」しかし、白龍は彼女の申し出を断りました。すると天女は泣き出してしまい、言いました。「その羽衣がなければ私は天へ戻ることができません。どうかそれを返してください」

そこで、白龍は言いました。「もしあなたが天人の舞を舞ってくれたら返しましょう」すると天女はうなずき、続けて言いました。「羽衣がなければ舞うことができません。先に羽衣を返してください」しかし、白龍は言いました。「もし、先にこの羽衣を返してしまったら、あなたは私に舞いを見せずにすぐに飛び立ってしまうでしょう」すると天女は言いました。「疑いの心をもっているのは人間だけです。私達天人には偽りの心はありません」白龍は天女の言葉を聞くと自分の振る舞いを恥じて羽衣を天女に返しました。

天女は喜んで美しい春の景色の中で天人の舞を舞いはじめました。そしてそのまま富士山を越え、天高く上っていきました。

大拝殿天井画
文化２年（1805）〜11年（1814）
静岡浅間神社

御挨拶

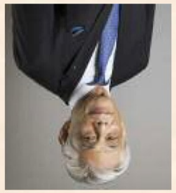
「三保松原」は、万葉の昔から白砂青松と霊峰富士の眺望の素晴らしさで全国にその名を知られており、これまでにどれほどの日本人がこの景色に感動し、魂に刻んできたかは現代に伝わる数多くの詩歌、絵画が如実に証明しています。

そしてその顕著な普遍的価値が認められ、平成 25 年 6 月に世界文化遺産「富士山－信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産として登録されました。

このたび完成いたしました「静岡市三保松原文化創造センターみほしるべ」は、「三保松原の玄関口の施設」であり、名勝及び世界文化遺産構成資産としての価値や魅力、松原保全の大切さをみなさまにわかりやすくガイダンスし、後世に継承する役割を果たしていきます。

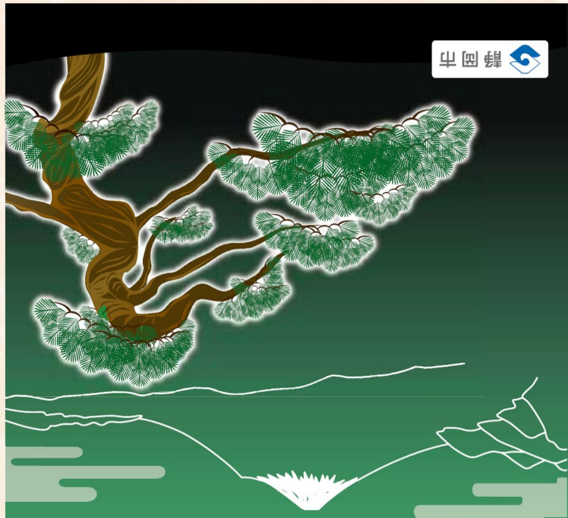
それに加え、これまで「三保松原」が芸術の創造にインスピレーションを与えてきたように、「三保松原」で新しい文化の創造につながるような活動を行っていく「未来志向の施設」にしていきたいと考えております。

静岡市三保松原文化創造センター 名誉館長
近藤 誠一



みほしるべ

MIHO SHIRUBE
静岡市三保松原文化創造センター
Shizuoka City Miho no Matsubara Culture & Creativity Center



静岡市

利用案内		
	開館時間	午前９時００分〜午後４時３０分
	入館料	無料
	開館日	年中無休

ご遠慮ください

- 展示室での携帯電話の通話や大声を出す等、他人の迷惑となる行為
- １階展示室での撮影・三脚の使用
- 館内での飲食（通り土間・テラスは可）
- ペットの持ち込み

静岡市三保松原文化創造センター「みほしるべ」
静岡市清水区三保 1338-45
TEL 054-340-2100　FAX 054-340-2700
https://miho-no-matsubara.jp/

三保松原ホームページ

施設名称「静岡市三保松原文化創造センター」

三保松原の価値や魅力、保全活動を国内外へ発信することを通じて、この松原を次世代に引き継ぐとともに、世界中から訪れる人たちと地元住民との交流を通じ、三保松原における文化的な価値と自然的な価値を融合させ、磨き上げた「三保松原文化」を作っていきたいという願いが込められています。

愛称「みほしるべ」

世界文化遺産に登録され、国内外から観光客が訪れる三保松原に誕生する、新しい施設に愛称をつけました。

一般公募で名づけられた「みほしるべ」という名前には、「三保を知る」と、「道しるべ」という二つの意味があります。

未来に向けて、美しい松原を守りながら、文化創造の道しるべとなるように、との意味が込められています。

展　示　室

三保松原への誘い

展示室へ続く廊下は、羽衣が揺れ松が香り、神秘的な世界への入口として皆様を歓迎いたします。

映像シアター（映像２種類）

■三保松原と、そこから望む雄大な富士山の姿を映し出します。三保松原の美しい景観をご覧ください。（上映時間約３分）

■三保松原と富士山のつながりを解説します。三保松原の景観から生まれた美の世界を感じてください。（上映時間約６分）

1F 展示室

三保松原の文化や芸術について展示しています。

1. 三保松原
2. 富士山信仰と三保松原
3. 羽衣伝説
4. 芸術の源泉
5. 三保松原のさらなる広がり
6. 未来に引き継ぐ

2F 展示室

マツという植物を知り、松原を守るために必要なことを学べます。顕微鏡を覗いたり、松から作られた楽器に触れ、松を満喫してください。

縄文時代から現代に至る三保の年表や、三保松原関連の図書コーナーでは三保や松について深く知っていただけます。

劇場型音声ガイド
提供　株式会社 Otono
１階展示室を、天女や白龍が音声で楽しくご案内します。
日・英・中・韓に対応しています。

1　三保松原

三保松原

三保半島は、富士山頂から南西に約 45ｋｍ離れた静岡県静岡市清水区にあり、沿岸の約5㎞にわたり松林が続いています。

この松林が「三保松原」と呼ばれ、松原の中央付近にある「羽衣の松」は天女と地元の漁師の出会いを描いた「羽衣伝説」の舞台として特に著名です。「海岸の松原越しに富士山を望む風致景観の優れた場所」として、大正11年（1922）に日本初の名勝に指定されました。

名勝三保松原

名勝は、文化財保護法が定める国指定文化財の種類の一つで、日本国内で風致景観が優れ、芸術上または学術的価値の高い土地を指定したものです。

松と日本文化

日本では松は、常緑で冬でも緑を絶やさない神の宿る神聖な木とされ、門松や正月飾りをはじめ、婚礼、誕生の祝い事に欠かせません。

中国においても縁起が良く、清く高い品格の意味を持った長寿の象徴です。

富嶽三十六景　東海道江尻田子の浦略図（葛飾北斎）
天保元-天保3年（1830-32）頃
東京国立博物館
Image:TNM Image Archives

神聖な三保松原

古くから富士山を望む聖地であった三保松原は、天女の伝説によって美しく語られ、昔から人々に親しまれ全国的に有名でした。

御穂神社

御穂神社の最も古い記録は平安時代（9世紀）に遷り、朝廷をはじめ今川氏・徳川氏などの武将からも崇敬されました。

現在の社殿は江戸時代中期に再建されたもので、平成8年（1996）に静岡市指定有形文化財となっています。神社には天人の残した「羽衣の裂」と伝わる古い衣の断片が所蔵されています。

御穂神社

神の道

神の道は、羽車神社から御穂神社へ神が通るとされる道で、道の両側には樹齢 200 ～ 300 年の老松の並木が約 500m続いています。

神の道

羽衣の松

羽衣の松は、御穂神社の正面から南に仰ぐる松並木「神の道」の先の浜にあります。

初代の羽衣の松は宝永４年（1707）以前の震災によって海中に没したと言われており、二代目の羽衣の松も平成 25 年に枯れ、現在は三代目となっています。

羽衣の松

二代目「羽衣の松」絵はがき（個人蔵）

羽車神社

羽車神社は、枯れた二代目「羽衣の松」隣に鎮座する御穂神社の離宮です。創建年は不詳ですが、羽車に乗って三保の浦に降臨した神を国土和平のために御穂神社に祀り、その離宮として羽車神社が設けられました。

羽車神社

2　富士山信仰と三保松原

古代中国の思想の影響により、富士山は蓬莱山とも呼ばれ仙人が住むと考えられました。その仙人の住む富士山と人間の世界とを結びつける「架け橋」のような存在が三保松原でした。

三保松原は常に富士山と共に描かれ、富士山へ向かう入り口と認識されてきました。

室町時代（16 世紀）
富士山本宮浅間大社

絹本著色富士曼荼羅図

この曼荼羅図は東海道から富士山頂に至る広大な景観を描いたもので、画面下方に清見寺、駿河湾、三保松原を描き、富士山頂は三峰に描かれ、名所絵によくある定型の構図となっています。

富士山内に描かれる建物は霞で分割され、険しい山容の姿を表現するとともに、下から上に行くほど聖域性が増す構造となっています。

禅定図に描かれた三保松原

富士山禅定図は登拝する道者の案内図として頒布されたものの一つで、彼らの御土産にもなりました。画面の左下が案内図における出発点で、静岡県より西側の参詣者に対して静岡側からの登山を誘う内容となっています。

三保松原が東海道や西国から訪れる道者にとっては、富士山への登拝に重要な場所として認識されていました。

三国第一富士山禅定図
江戸時代（19 世紀）
小山町教育委員会

3　羽衣伝説

謡曲「羽衣」は室町時代に成立した三保松原を舞台とした「能」の演目です。

物語の成立

三保松原は富士山・松原・海浜が揃った名所として有名でした。

全国に羽衣伝説が伝わっていましたが、謡曲の作者はこの美しく神聖な風景があったからこそ、三保松原をその舞台に選びました。しかも男が猜疑心を恥じ人間の欲を捨てて羽衣を返すという、美しい物語に仕上げました。

能「羽衣」は美しい景色と艶やかな天女の舞が一体となり、人の心をとらえています。

雙筆五十三次　江尻
（三代歌川豊国・歌川広重）
安政元年（1854）
静岡市

海を渡った謡曲「羽衣」

19世紀後半になると、三保の羽衣伝説をもとにした能『羽衣』は海外にも知られるようになってきました。

イェイツ（1865 ～ 1939）やパウンド（1885 ～ 1972）など西洋のモダニズムの作家の作品にも取り上げられ、日本の伝統芸能である「能」が世界に広まる契機となりました。

羽衣（木村武山）昭和初期(1920年代後期-30年代前期)　静岡県立美術館

エレーヌ・ジュグラリスは、大正5年（1916）フランスで生まれた舞踊家で「能」に出会い心を打たれました。日本文化の研究をし、フランスで能「羽衣」を上演しました。

エレーヌは劇場の公演中に舞台上で倒れ、憧れの地であった三保松原を一度も訪れることなく、白血病により 35 歳の若さでこの世を去りました。エレーヌが亡くなったその年に、夫マルセルが彼女の遺髪を持って来日し、翌昭和 27 年（1952）、フランスの舞姫の功績を称え、三保松原にエレーヌの碑が建てられました。

エレーヌ・ジュグラリス 1949年
静岡市

4　芸術の源泉

日本人は、古来、富士山を畏れ、敬い、信仰の対象としてきました。同時に、富士山に寄せる畏敬の念や、その視覚的な美しさを源泉に様々な芸術を生み出してきました。

三保松原の存在は、この芸術の源泉に欠かすことができません。

絵画に描かれた三保松原

室町時代、富士三保松原図の伝統を考えるうえで重要な作品が生まれました。伝雪舟「富士三保松原図」です。

神宿る富士山と名刹清見寺、そこに三保松原を組み合わせ、安定した構図にまとめあげた作品で、富士山と三保松原の絵（富士三保松原図）の基本形として、多くの同一構図の作品が作られるとともに、後代の富士山図に絶大な影響を与えました。

富士三保清見寺図　（伝雪舟等楊）
室町時代（16 世紀）　永青文庫

江戸時代には、雪舟型の富士山図が受け継がれる一方で、新たな富士三保松原図への挑戦も見られました。

富士山図（狩野探幽）
寛文７年（1667）　静岡県立美術館

また、浮世絵風景画の隆盛に伴い、三保松原も多くの浮世絵の題材となり、広く庶民に親しまれました。

明治以降も、富士山と三保松原の図（富士三保松原図）は描き継がれていきます。三保松原は、西洋からもたらされた油絵の技法によって日本の風景を描くときにも、重要なモチーフでした。

芸術の源泉としての富士山と三保松原は、近代を経て、現代の私たちにも受け継がれています。

富士
（五姓田義松）　明治38年(1905)　静岡県立美術館

五十三次名所図會 十九 江尻 山了の酒 三保の松原
（歌川広重）
安政２年(1855)
静岡市

東海道五十三次之内　江尻
京次郎兵衛
（三代歌川豊国(歌川国貞)）
嘉永5年(1852)
静岡市

5　三保松原のさらなる広がり

「富士山と三保松原」が一体として描かれるイメージは、江戸時代後期になると大衆にも広く行き渡り、手工芸品や日用品に広く採用されました。

近代になると大量生産品の外装や商品の広告物にも、富士山と松の図像が用いられていきました。

個人蔵

大正時代になると、三保を舞台とした謡曲「羽衣」を子供向けにした「はごろも」（三保の羽衣伝説）が、国定教科書に掲載されるようになり、小学校３年生、または４年生になると必ず、学ぶため広く知られるようになりました。

また、文部省唱歌でも「新訂高等小学唱歌」の中に「羽衣」が掲載され、更に広がっていきました。

小学国語読本
昭和8年～昭和15年
(1933～1940)
静岡市

壁に描かれた三保松原

銭湯に初めてペンキ絵の富士山が描かれたのは、大正元年（1912）の東京都千代田区にあった「キカイ湯」とされています。施設を増設する際に経営者が「子供たちに喜んで湯船に入ってほしい」と願い、静岡県出身の洋画家川越広四郎に依頼し、駿河湾からの富士山を描きました。

銭湯絵三保松原・富士松　富士温泉・日本鉱泉

6　未来に引き継ぐ

世界遺産登録

2013 年 6 月の第 37 回世界遺産委員会において、「富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉 -」の名称で世界遺産に「文化遺産」として登録されました。

構成資産とは

「富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉 -」は、富士山と一体となる価値を有する、25 箇所の構成資産全体を指します。

山体だけでなく、古より富士山と深く関わりを持つ周囲の神社や登山道、溶岩樹形なども含まれ、三保松原もその一つです。

登録証明書の内容

世界遺産委員会は「富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉 -」を世界遺産一覧表に記載しました。一覧表への記載は、文化遺産又は自然遺産としての顕著な普遍的価値を持ち、全人類の利益のために保護を要するものであることを証明するものです。

記載日　2013 年 6 月 26 日
ユネスコ事務局長　　イリーナ・ボコバ

登録証明書　静岡市

私たちの決意

三保松原は過去には伐採が進み荒れた時代もありました。しかし、三保松原が名勝や世界遺産として現在まであり続けるのは、三保を愛する地元住民や多くの方が力を合わせたおかげであり、松原を大切に守ってきた証拠です。

また現在は、多くの市民団体や地元住民の方々が清掃活動や松原保全活動に参加しています。

古代より日本人の心を魅了するこの風景は、世界に発信すべき日本の宝であり、私達はこれからも引き続き、三保松原を守り続けなければいけません。